

# ヒバクシャ国際署名



H I B A K U S H A

A P P E A L

## 原水爆禁止2016年世界大会国際会議宣言よびかけ

核兵器のない平和で公正な未来をひらく最大の力は、諸国民の世論と運動の発展である。我々は、以下の行動をよびかける。

一世界で数億の署名を目標にした「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」をはじめ、核兵器を禁止し、廃絶する条約の交渉開始を求める世論を発展させよう。そのためにも、広島・長崎の被爆の実相の普及、被爆者の証言活動を国際的に推進する。国連総会、国連核兵器廃絶デー(9月26日)や国連軍縮週間(10月24日～)などを節目として行動を発展させよう。

一被爆者への援護・連帯をすすめ、国家補償を実現しよう。核実験や原発事故被害者の救済を求め、福島第一原発事故の被災者への支援を強めよう。原発ゼロを求める運動との連帯を発展させよう。枯葉剤、劣化ウラン弾などの戦争被害者を支援しよう。武力紛争やテロの犠牲者を支援しよう。

一反戦・平和、沖縄・グアムはじめ外国軍事基地の縮小・撤去、武器輸出と軍事産業の規制、軍事費削減と生活、雇用、福祉の向上、貧困と格差の解消、気候変動の防止と地球環境の保護、性差別はじめあらゆる差別の克服など、社会的不正義にたちむかい、持続可能な発展をめざすあらゆる運動と連帯しよう。

被爆者は訴えている―「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」(「ヒバクシャ国際署名」の「訴え」より)。この切実な願いにこたえ、決意をあらたに「核兵器のない平和で公正な世界」へ前進しよう。

**「抑止力」を理由に、核兵器使用の正当化は許せない・  
悪魔の兵器は今すぐ廃絶を。**

国連総会、国連核兵器廃絶デー(9月26日)や国連軍縮週間(10月24日～)などに行動しよう。

「核兵器のない世界」を実現するための法的措置を議論してきた国連の作業部会が報告を採択し、核兵器禁止条約などの交渉を来年から始めるよう国連総会に勧告しました。

今年の原水爆禁止世界大会・国際会議宣言は「国連総会に対して、核兵器禁止・廃絶の条約の交渉開始をふくむ具体的な勧告を行うこと」を作業部会に要請しました。この宣言は直接、作業部会の議長に届けられ、会場でその内容が紹介されました。作業部会の報告は、こうした世論と運動を反映したものだと言えます。

その流れを後押しする「被爆者が訴える国際署名」の取り組みの大きなステップになった歴史的な大会になりました。

秋の国連総会が核兵器禁止条約の交渉開始に踏み出す上で、その障害を打ち破る、被爆地の奮闘が求められています。



核兵器のない平和で公正な世界を 原水爆禁止長崎県協議会

Gensuikyo news

〒850-0035 長崎市元船町5-11-402

2016/08/25

TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102

